



すこやか通信

2021.12.17 No.35

2021年
夏

コロナ禍の東京オリンピック・パラリンピック “TOKYO 2020”

副院長 中村 滋

新型コロナが猛威を奮った夏、皆さんはどう過ごされましたか？外出も外食も出来ない中、TOKYO 2020をテレビで観戦、日本選手の活躍を楽しんだ人は多かったと思います。世界中で新型コロナの感染が広がる中、東京でなければ開催出来なかったと言われた大会ですが、コロナさえなければもっと楽しめたはずの“TOKYO 2020の話題”です。

開会式の7月23日、飛行計画を直前に知って急いで近くの公園へ。コロナで外出制限の中でしたが多くの方がブルーインパルスの飛行を見つめていました(写真1)。

無観客で行われた大会でしたが、オリンピック・パラリンピックともに日本選手は大活躍でした。当院の患者さんでも活躍した選手がいます。パラリンピックのパワーリフティング49kg級に出場した三浦浩選手。参加選手で最年長ながら127kgを挙げて9位になりました(写真2)。

聖火ランナーで活躍したのは聴覚と視覚の重複障害の小林祐子さんです。ご存知のように沿道でのリレーではありませんでしたが、葛西臨海公園での聖火リレーに出場しました。通訳介助なしでは外出できない、でも伴走者とマラソンを走れる方ですが、“当日はドキドキした。トーチは重かった。”そうです(写真3)。

一時は新型コロナの感染が急拡大しどうなることかと思ったこの夏(8月13日の東京の感染者5,773人)でしたが、地域一丸で積極的に取り組んだワクチン接種や、いつもつけているマスク、人との接触機会を減らすなどの感染防御対策で感染者は激減しています。この状態を続けて、以前のような生活ができるようにしたいものです。



写真1：入道雲の上を飛び五輪を描くブルーインパルス



写真2：パラサポWEBから。観客の拍手に応える三浦浩選手



写真3：中央が小林祐子さん、右は通訳介助・同行援護の青柳健司さんです。

【理念】

誠心を持って医業を行い、常に医術の向上をはかり、誠実に実行します。

【基本方針】

心暖まる医療・看護を目指し、患者さんの健康の回復に努力し、地域の住民の方々に奉仕します。これを誠実に実行することを我々の喜びと致します。

- ①地域の医院・診療所との連携を密にし、24時間診療体制をとっています。
- ②生活習慣病の予防及び地元企業に働く人々の健康管理に専門的な見地から寄与します。

写真で綴る院内の様子

制服が新しくなりました

外来受付



患者さん一人一人に丁寧な対応を心がけています。

外来処置室



健診・予防接種は是非中村病院へ!

検査科



正確かつ迅速に、様々な検査を行っています。

放射線科



病気を早期発見できるよう努めています。

薬局



一錠一錠丁寧に扱っています。

医師補助



円滑な診療ができるように事務補助を担当。

リハビリ科



平行棒で歩行訓練中。

病棟



介助入浴日のワンシーン。

医療連携室



笑顔で、丁寧に、親切にをモットーに対応しています。

栄養科



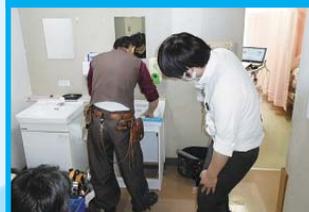
愛情込めて、入院患者さんや職員の食事を準備中。

新装置導入



最新の機械浴を導入。寝たままでも快適に入浴できます。

総務課



病院を縁の下で支えています。

“TOKYO 2020” 東京オリンピック・パラリンピック

選手村から

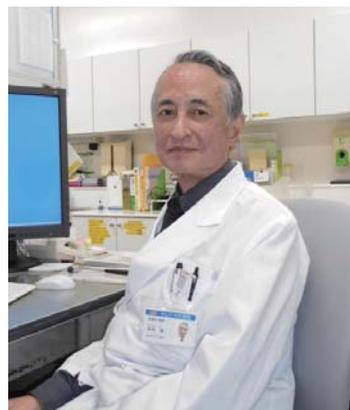
パラリンピックの三浦選手からお礼の葉書をいただきました。

これからも頑張ってください!



認知症の早期発見

中村病院 神経内科部長 北村 伸



高齢になるほど認知症の人は多く、誰もが認知症になる可能性があります。認知症の原因疾患は数多くあり、慢性硬膜下血腫や甲状腺機能低下症のように早く診断して治療すれば治るものがあります。アルツハイマー型認知症（DAT）には進行を遅らせる薬があり、早期に治療を開始することが大切です。また、DATの病理（ β アミロイドの蓄積）に作用する新しい治療薬が開発され、我が国でも早期のDATの人に使用出来ることが期待されています。そして、早期に診断されれば認知症の人が今までと変わりなく生活ができるような対応や介護の準備をすることができます。

認知症を早く見つけるためには、認知機能の障害で生じる生活の中での様々なエピソードを捉えることがポイントです。DATでは、

日時についての見当識障害により…

- 日や曜日があやふやになってきます。
- 家族に今日は何日かと何回も聞いてくることがあります。

記憶障害により…

- 少し前のことを全く忘れてしまうため大事な約束や予約を忘れてしまいます。
- 何回も同じことを聞いてくる、何回も同じことを話すようになることがあります。
- 自分で忘れることを自覚していると、今まではしなかったメモを細かく取るようになってくるかもしれません。
- 物を置いた場所を忘れるので、探し物をしていることが多くなります。
- 薬を飲んでいる人は飲み忘れが多くなるので、残薬がたくさん見つかるかもしれません。

実行機能障害により…

- 料理をしなくなったり、部屋の片付けができず物が散乱した状態になっていたり、今までしていた趣味をしなくなることもあります。

言葉を想起する機能も障害されるので…

- 言葉が出にくくなり、代名詞が会話の中で多くなります。
- 正常な人でも歳を取ってくるとあれとかそれとかの代名詞が多くなりますが、認知症の人ではより頻回になってくると思います。



上記したようなエピソードがあったら、歳のせいにして様子を見るのではなく受診をして認知症の早期診断につなげてほしいと思います。

もの忘れ相談会



こんにちは。認知症疾患医療センターの相談員の栗山と言います。もの忘れ相談会では、認知症を抱える方やそのご家族などの様々なご相談に対応しています。予約制とはなっていますが、日時などは柔軟に対応できますので、お気軽にお問合せください。

寒くなってきましたので、体調にはくれぐれも気をつけてお過ごしください。ご連絡をお待ちしています！

TEL : 03-3611-9740(直通)

E-mail : ninchi@jinjukai.or.jp



インフルエンザは、インフルエンザウイルスによって引き起こされる呼吸器感染症です。

風邪と間違われやすいインフルエンザですが、風邪の場合はゆっくり症状が出てくるのに対して、インフルエンザは急激に症状が出てきます。症状が出る部位も局所的ではなく、全身に倦怠感が現れるのも特徴です。

潜伏期間は1～4日（平均2日）で多くの場合1週間程度で治りますが、乳幼児や高齢者、基礎疾患を持つ方の中には、肺炎を併発したり、基礎疾患の悪化を招く場合があります。

昨年のシーズンは、新型コロナ対策として普及した手指衛生やマスク着用、3密の回避、国際的な人の移動制限などの感染対策がインフルエンザの感染予防についても効果的であったためか、流行はありませんでした。しかし、2021～2022年のシーズンについては、昨年のシーズンにインフルエンザに罹患した人が少数だったため、集団免疫が形成されていないおそれがありコロナとの同時流行が危惧されています。

インフルエンザの感染予防の基本は手洗いと咳エチケットの励行です。正しい手洗いと咳エチケットで感染対策しましょう。

さあ、みんなで手をあらおう!!



「せきエチケット」で感染拡大を抑えましょう!



医療法人社団仁寿会
救急・労災指定

中村病院



院長 中村 隆

当院は日本医療機能評価機構認定病院です

●診療時間●

月曜～土曜
9:00～12:30
(受付8:00～12:00)
13:30～17:00
(受付13:00～16:30)
※水曜日のみ上記に加え
18:00～19:00
(受付17:50～19:00)

●診療科目●

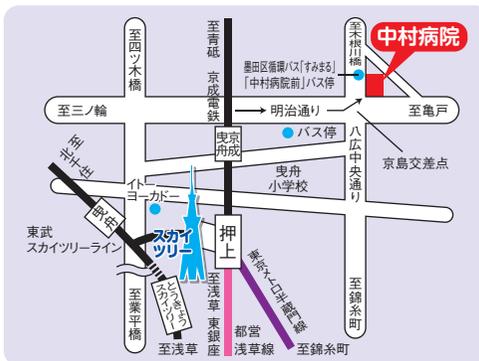
内科	外科	皮膚科
呼吸器内科	消化器外科	泌尿器科
循環器内科	肛門外科	リハビリテーション科
胃腸内科	整形外科	麻酔科
神経内科	脳神経外科	
ペインクリニック	形成外科	

●休日●日曜・祝日・創立記念日(3月1日)

※但し急患の場合は、随時受け付けます。

〒131-0041 墨田区八広2-1-1 TEL 3612-7131(代)

ホームページアドレス <https://www.jinjukai.or.jp/>



編集後記

コロナも落ち着いてきました。緊急事態宣言も解除となり、街は賑わいを戻しつつありますが、第6波も懸念されています。そんななか健康のためウォーキングを始めてみました。ウォーキングは密にならないし、屋外だし、自分のペースで歩けます。いつもと違う角度からのスカイツリーもみられます。ゆっくり始めてみませんか。

